

勇気ある言葉

千葉県 高根台中学校 3年 土橋 未来

「なにかお困りですか？」

私は休日に母と買い物をした帰り、初めての駅で乗り換えのしかたに迷ってしまいました。そのときに、外国人と思われる男性に声をかけられました。駅の改札で聞けばいいと思っていたので、最初は戸惑う気持ちが強くありました。でも、せっかく声をかけてくれたのに、変に遠慮したらなんだか申し訳ないと思い、事情を話すと笑顔で道を教えてくれました。おかげで無事に乗り換えができました。

家に帰った後、母に日本人の私たちが外国人に助けってもらったことは、ちょっと恥ずかしいような不思議な感じがしたと話しました。母も同じような気持ちだったそうです。日本語がとても上手だったので、日本に長く住んでいるのだろうとは思いますが、その男性の行動力に素直に感心しました。知らない人に声をかけて親切にすることは勇気がいることで、同じ日本人同士でもなかなかできることではないと思うからです。

お休みの日に駅や街中で、外国人観光客を見かけることがあります。思い返してみると、目的地の行き方などがわからなくて困っている人もいたような気がします。

私はまだ中学生で英会話も全然できないので、そのような場面に遭遇しても、自分から声をかけるなど絶対にできないと思います。それに、外国人から声をかけられて尋ねられても、今は答えられる自信もありません。

今回の体験で思ったことは、今すぐには無理でも少しずつ語学力を身につけ、英会話に自信を持てるようになりたい。そして、困っている外国人を今度は私が手助けできるようになりたいということです。

現在の日本は、世界各国からたくさんの観光客が訪れる国になりました。その数は 2015 年に 2000 万人を超え、今後もさらに増え続けるようです。そして東京オリンピックが開催される 2020 年には、日本政府は 4000 万人の外国人が訪日することを目標としているそうです。

訪日する人数を増やすためには、魅力的な観光スポットや楽しいイベントなども必要ですが、一番は日本が親切で安心できる国だと思われることが大事です。そのためには、日本に来た外国人に「もう一度来たい」と思われるような対応が大切です。

それが実現できたら、一度訪日した外国人が、家族や友人に、「日本人は親切で、日本は素晴らしい国だ」と宣伝してくれて、新しく訪日しようと思う人や、リピーターとして再訪してくれる人も増えると思います。

東京オリンピック誘致のスピーチで使われて、流行語にもなった「おもてなし」という言葉があります。

私の考える、日本らしいおもてなしは、ちょっとした気配りや親切心だと思います。小さな心配りをみんなで積み重ねることで、訪日した観光客の心に残るおもてなしが、できるのではないかと思います。